

第七十五回 帝國議會 貴族院 市町村義務教育費國庫負擔法改正法律案特別委員會議事速記録第一號

付託議案

市町村義務教育費國庫負擔法改正法律案 現役小學校教員俸給費國庫負擔法改正法律案

委員氏名

- 委員長 伯爵柳原 義光君
副委員長 男爵大森 住一君
公爵山縣 有道君
侯爵大炊御門經輝君
關屋貞三郎君
子爵松平 保男君
子爵織田 信恒君
子爵錦小路頼孝君
内田 重成君
建部 遯吾君
男爵中川 良長君
男爵關 義壽君
田所 美治君
澤田 牛麿君
松本 學君
竹下 豐次君
山隈 康君
松井貞太郎君

昭和十五年三月二十日(水曜日)午後二時 七分開議

○委員長(伯爵柳原義光君) ソレデハ是ヨリ市町村義務教育費國庫負擔法改正法律案及現役小學校教員俸給費國庫負擔法改正法律案ノ委員會ヲ開催致シマス、先以テ文部大臣カラ此ノ案ニ對スル御説明ヲ承リタ

イト存ジマス

○國務大臣(松浦鎮次郎君) 市町村義務教育費國庫負擔法改正法律案並ニ現役小學校教員俸給費國庫負擔法改正法律案ノ二件ニ付キマシテ、其ノ提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、今回中央、地方ヲ通ジマスル稅制ノ改正ニ當リマシテ、市町村立小學校教員ノ俸給ヲ市町村ノ負擔カラ北海道及府縣ノ負擔ニ移スコトト致シマスノデアリマス、是ハ財政上並ニ教育上ノ理由ニ基クモノデアリマスルガ、先ヅ財政上之ヲ必要トスル點カラ申上ゲマス、御承知ノ如ク市町村立小學校教員ノ俸給ハ、市町村歳出ノ相當部分ヲ占メルノミナラズ、年々數百萬圓ノ膨脹ヲ致シマスル經費デアリマシテ、之ヲ財政力ノ小ナル市町村ノ負擔トナシテ置キマスコトハ、市町村財政ヲ壓迫シ、其ノ爲負擔ノ過重又ハ負擔ノ不均衡ヲ來ス因トモナルノデアリマス、仍テ之ヲ財政力ノ大イナル道府縣ノ負擔ニ移シマシテ、地方財政ノ跛行ヲ是正スルト共ニ、國、道府縣、市町村間ノ義務教育費ノ負擔區分ヲ適當ニ調整スルコトガ極メテ肝要ト存ズルノデアリマス、次ニ教育上ノ見地カラ申上ゲマスレバ、市町村立小學校教員ノ俸給ガ市町村ノ負擔トナツテ居リマスルガ故ニ、其ノ豫算ニ拘束セラレマシテ、往々教員ノ適正ナル移動並ニ配置ノ圓滑ヲ缺キマスルシ、又教員ノ待遇ニ付キマシテモ財政力ノ區々ナリ市町村ガ俸給ノ負擔ヲ致シテ居リマスルノ

生ジマシテ、勢ヒ優良ナル教員ガ財政力ノ豐ナ都市ニ集中致シマシテ、財政力ノ乏シキ町村ニ於キマシテハ其ノ教育組織ハ低下致シマスルシ、教育ノ效果ニ及ボス影響ガ少クナイノデアリマス、且又財政貧弱ナル町村ニ於キマシテハ、教員俸給支拂ノ延滞サヘモ生ジテ居ルヤウナ次第デアリマシテ、小學校教員ノ俸給ヲ市町村ニ於テ負擔致シマスコトガ、教育上幾多ノ弊害ヲ醸ス原因トモ相成ツテ居リマス、斯クノ如キ諸弊ヲ除キマシテ、以テ小學教育ノ振興ヲ期スルガ爲ニハ、其ノ俸給ヲ市町村カラ道府縣ノ負擔ニ移スコトガ極メテ緊要ナコトト存ズルノデアリマス、敍上ノ見地ヨリ致シマシテ、今回ノ中央、地方ヲ通ジマスル稅制ノ改正ニ當リマシテ、市町村立小學校教員ノ俸給ヲ道府縣ノ負擔ニ移スコトト致シマシテ、尙教員ノ赴任ノ場合ニ支給シマスル旅費ニ付キマシテモ、俸給ヲ道府縣ノ負擔ト致シマスルニ於キマシテハ、之ヲ市町村ニ負擔セシムルコトヲ不適當ト考ヘマスノ

デ、併セテ道府縣ノ負擔ニ移スコトト致シタノデアリマス、從ヒマシテ、從來市町村ニ交付致シテ居リマシタ市町村立尋常小學校教員俸給ニ對スル國庫負擔金ヲ北海道及府縣ニ交付スル必要ヲ生ジマスルシ、且又此ノ國庫負擔金ニ付キマシテモ八千五百萬圓ヲ下ラザル一定額ヲ負擔スル現制度ヲ改メマシテ、市町村立尋常小學校教員俸給ニ要スル經費ノ二分ノ一ノ定率ヲ以テ負擔スルコトト致シマスルノデ、此ノ趣旨ニ從ヒマシテ、市町村義務教育費國庫負擔法並ニ現役小學校教員俸給費國庫負擔法ヲ改正致サムトスルモノデアリマス、先ヅ市町村義務教育費國庫負擔法改正法律案ニ付キマシテ改正ノ要點ヲ御説明申上ゲマス、前申シマシタ通り小學校教員ノ俸給ヲ道府縣ノ負擔ト致シマシテ、且國庫負擔金ヲ二分ノ一ノ定率ヲ以テ支出スルト云フ制度ヲ採ルコトト致シマシタノデ、現行法ノ題名即チ市町村義務教育費國庫負擔法ヲ義務教育費國庫負擔法ト改メマシテ、現行第一條及第二條ヲ整理致シマシテ、之ヲ改正法律案第一條ニ統合規定致シタノデアリマス、又現行第三條乃至第五條ハ國庫負擔金ノ配分ニ關スル規定デアリマスルガ、今回國庫負擔金ハ定率交付ノ制ヲ採リ、且北海道及府縣ニ交付スルコトニナリマスルガ故ニ、之ヲ改正法律案ノ第二條ノ如ク改メタルコトト致シタノデアリマス、更ニ現行法第七條第一項ハ國庫負擔金ノ交付先ニ關スル規定デアリマスガ、今回其ノ交付先ノ變更ニ依リマシテ自然存置スルノ意義ヲ失ヒマシタノデ、之ヲ廢止スルコトト致シマシタ、又現行第六條及第七條第二項ノ規定ノ趣旨ハ、之ヲ改正法律案第三條及第四條ニ存置スルコトト致シタノデアリマス、尙現行第三條ノ特別規定タル昭和七年法律第一號ハ、之ヲ廢止スルコトト致シマシテ、改正法律案附則ニ規定シテ居リマス、次ニ現役小學校教員俸給費國庫負擔法改正法律案ニ於キマシテモ、同様小學校教員ノ俸給ガ道府縣ノ負

擔トナリマスル關係上、訂正ヲ要シマスル字句ノ整理ヲ爲サントスルモノデアリマス、何卒御審議ノ上御可決アラムコトヲ希望致シマス

○田所美治君 私、資料ヲ請求シテ置キマス、市町村ノ負擔ノ關係ヲ明白ニ分リマシヤウナモノガアリマシタラバ頂戴シタイト思ヒマス、俸給費ヲ現行規定ノヤウニ市町村支辨ニシテ置キマス爲ニ市町村ノ負擔ノ不均一ト申シマスカ、輕重ト云ヒマスカ、宜シキヲ得ヌ、御説明ノ中ニモサウ云フ御話ガアツクデアリマスガ、何かサウ云フモ

ノガ分リマス……町村ニ於テハ小學校教員ノ殆ド町村經費ノ八割、或ハソレ以上ニナツテ居ルカモ知レマセヌ、ソレナコトトカ、只今平均ノ位ニナツテ居リマストカ、或ハマア負擔ノ輕イ所デハ教育費、即チ俸給費ノ爲ニドシナニナツテ居ルカ、負擔關係ヲ明白ニシ得ル表ガ御出來ニナツテ居レバ頂戴致シタイト思フデアリマス、ソレカラ俸給ノ關係ガドウナリマスガ、追々御質問ニ

ナツテ明白ニナリマセウガ、山村漁村等ニ於キマシテドノ位出シテ居ルモノデアルカ、例ヘバ貧弱ナ町村デ十分ノ優遇ガ出來ナクテ、五十圓トカ、四十圓トカ云フヤウナ安イ教員ヲ入レテ居ル、之ニ反シテ都會ノ地方ニ於テハ潤澤ニヤツテ居ル、ソレハ其ノ負擔力モ大分違ヒマセウシ、又經濟ノ關係ガチヨット違ヒマセウカラ、當然ノ話デアリマスケレドモ、サウ云フモノガ分リマスヤウナ何か御調ガアレバ表ヲ頂戴致シタイト思ヒマス、モウ一ツハ、今後府縣支辨ニナツタガ爲ニ其ノ山村漁村ト、ソレカラ都會地方、極端ナ例ヲトリマスガ、サウ云フモノノ間ノ關係デアリマスガ、府縣知事ガ勝手

ニ例ヘバ俸給ノ割當ヲシ、教員ノ割當ヲスルト云フコトニナリマスト云フト、山村漁村等ノ貧弱ナ町村ハ從來ヨリハ良イ教員ヲ得ルトカ、俸給ノ高イ、所謂優遇ノ方法モ立チマセウ、ソレハ喜ビマセウガ、一面ニ於テハ又總額ガ決ツテ居リマスカラ、都會地方デハソレガ爲ニ却テ優遇ガ反對ノ結果ヲ生ズルト云フヤウナコトニナリハシナイカ、今ノ文部大臣ノ御説明ノ中ニモ第何條デスカ、現行條例ヲ持ツテ居リマセヌガ、第何條、第何條ト云フモノハ削ツタト云フ御話デアリマシタガ、町村支辨ノ場合ト府縣支辨ノ場合ト違ヒマスカラ、ソレナ不必要ナ條項ハ御削リニナツタト思ヒマスガ、是等ノ關係ガ、府縣トソレカラ市町村トノ關係ト云フモノガ、ドウ云フヤウニナルカ、斯ウ云フコトヲ承知シテ見タイト思フデアリマ

スガ、折角是ハ府縣費ニナリマシテ、段々國庫負擔ノ理想ト云フモノニ近ヅク一ツノ段階ト思ヒマシテ、私ハ大體喜ブデアリマスガ、ソレ等ノ關係ガドウナリマセウカ、或ハ勅令等デウマク規定ニナリマセウガ、省令等デモオヤリニナリマセウガ、ソコ等ノコトガ御尋ヲシテ御答ニ依ツテモ了承シマセウケレドモ、何か分ルヤウナ材料ガアリマシタラバ、ソレモ頂戴シタイ、斯ウ申上

ゲテ置ク次第デアリマス

○内田重成君 私モ資料ノ提出ヲ御願ヒシタイ、衆議院ニ於キマシテ資料ノ要求ガアツテ、ソレニ對シテ政府デハ、全部デアルカ一部デアルカ存ジマセヌガ、既ニ御提出ニナツテ居ルモノガアルデアラウト思フ、既ニ御調ニナツテ居ルナラバ、別段只今御手數モ掛ラヌコトデアラウト考ヘルノデ、衆議院ニ資料トシテ御提出ニナリマシタ分ヲ全

部御廻シヲ願ヒタイト考ヘマス、ソレヲ御願ヒ致シマス

○建部遷吾君 私モ三ツダケ御願ヒシタイデアリマス、第一ハ、現行法規ト云フコトヲ、只今大臣ノ御説明中ニモアリマシタガ、チヨット謄寫版ニデモシテ頂戴シタイ、第二ハ、只今大臣ノ御説明中ニモアリマシタ、甚ダシキニ至ツテハ俸給不渡ト云フコトモアルト云フ、其ノ俸給不渡ニ對スル統計

の事實ヲ表ニシタモノガアリマスナラバ頂戴シタイ、ソレカラ第三ハ、義務教育費國庫補助ト云フモノガ一番初メハ千萬元カラ始ツタト思ヒマス、サウシテ現行ノ八千五百萬圓ニ至リマスル迄數回ノ増額ガアツタト

思ヒマスルガ、其ノ各次ノ増額毎ニ、ソレガ何年何月ニ斯様ニナツタト云フ其ノ事實、詳シイコトハ要リマセヌ、唯其ノ年月ガテ

デ宜シウゴザイマス、都度々々ノ年月ヲ表ニシテ貫ヒタイ、此ノ三點ヲ要求シタイト

思ヒマス

○男爵關義壽君 只今ノ建部サンノニ聯繫シテ居リマスガ、各縣ノ不渡、ソレノ非常ニ著シイ縣、又完全ニ不渡ノ無イ縣、ソレヲ特ニ明瞭ニ御示ヲ願ヒタイト思ヒマス、資料ヲ戴ク時……ソレカラ縣視學ノ數ガ

縣ニ依ツテ違フト思ヒマスガ、此ノ數ヲ各縣別ニ御願ヒシタイ、且其ノ視學ノ出身別モ宜シケレバ一緒ニ書イテ戴キタイ、其ノ次ハ小學兒童ノ健康狀態、特ニ病氣、呼吸器病トカ色々アリマセウガ、特ニ病氣ノ狀態ヲ統計的ニ御示シ願ヒタイ、以上ヲ御願ヒ致シマス

スガ、比率ダケ……ソレカラ小學校教員ノ出生地、自分ノ出身シマシタ市町村ニ勤務シテ居ル者ガ、全體ノドノ位ノ割合ニナツテ居リマスルカ、其ノ二ツヲ御調べ願ヒタイト思ヒマス

○國務大臣(松浦鎮次郎君) 御要求ノ調ガ出來マスル限リ御提出ヲ致スコトニ取計ラヒマス

○澤田牛麿君 私ハ質問ヲシテ見タイノデアリマス、大變幼稚ナコトデゴザイマスガ、自分ノ知識ガ餘リニ少ナ過ギルノデヲカシ

イカト思ヒマスガ、此ノ法律ハ新法デアリマセヌカ、一條カラ全部出來テ居ル、改正法律案ト表題ニハナツテ居リマスガ、改正法律案ト云フコトデナクテ新ラシイ法律ヂヤアリマセヌカ

○國務大臣(松浦鎮次郎君) 御尤モナ御尋デアリマスガ、是ハ從來全部改正トシテ、此ノヤウナ形ヲ取ツタ例ガアルサウデアリマ

スカラ、ソレニ據ツタノデアリマス、本來ハ新ラシイ法律ヲ作リマシテ、前法ヲ廢止スルト、附則ニ於テ廢止スルト云フヤウナ風

ノ形式ヲ取ルノガ或ハ順當カモ知レマセヌガ、斯ウ云フ形ヲ取ツタ先例ガアリマスノ

デ、ソレニ據ツタ譯デアリマス

○澤田牛麿君 ソレハ表題ハ元ノ通りデアツテ、内容ガ大イニ變ツテ居ルト云フヤウナ場合ニ、新ラシイ法律ノ形式ニスルカ、或ハ簡條ノ改正ノ法律ニスルカト云フコトハ色々例ガアルヤウデアリマスケレドモ、是ハ私ハ舊法ヲ能ク承知シテ居ラヌデ甚ダ何デ

スガ、表題カラ違ツテ居ルノデハナイカト思ヒマスガ……

○國務大臣(松浦鎮次郎君) 例ヘバ徵兵令ヲ兵役法ト變ヘマシタ場合ニモ、矢張り斯

ウ云フ例ニ據ツタコトガアリマス
○澤田牛麿君 ソレカラ序ニ伺ッテ置キタ
イノデスガ、是非非常ニ幼稚ナ何デスガ、
義務教育ノ費用ヲ道府縣デ負擔スルト云フ
ノハ何ニ依ッテ決ッテ居ルノデスカ、何時決
メラレタノデスカ

○國務大臣(松浦鎮次郎君) 道府縣ノ負擔
ニ移スト云フ勅令ハ未ダ公布サレテ居リマ
セヌ、勅令制定ノ用意ハ致シテ居リマスガ、
ソレハ此ノ負擔法ノ改正ト同時ニ四月一日
カラ施行サレルヤウニ勅令ノ制定ヲ致ス、
斯様ナコトニ相成ッテ居リマス

○澤田牛麿君 サウスルト此ノ法律ハ勅令
ガ出テカラ其ノ結果トシテ出來ル法律デア
ルト思フノデアリマスガ、此ノ前ニモ私伺
ヒマシタガ、國民學校ノ時モサウデスガ、
ドウモ前後ガ少シ顛倒シテ居ルヤウニ思ヒ
マスガ、此ノ法律ガ決議ニナラヌト勅令ガ
出ナイト云フコトニナルノデアリマセスカ
○國務大臣(松浦鎮次郎君) 此ノ勅令ト法
律トノ關係ハ互ニ密接ニ關聯致シテ居リマ
シテ、是ガ同時ニ發令ニナルヤウニ致シタ
イト考ヘテ居ルノデアリマス、元來ナラバ
教育費ノ負擔ヲ市町村カラ道府縣ニ移シマ
スコトハ、是ハ從來勅令事項トシテ勅令デ
規定サレテ居ルノデアリマス、其ノ負擔團
體タル公共團體ニ對シテ國庫負擔金ヲ交付
スルト云フコトガ此ノ法律ノ意味デアリマ
シテ、謂ハバ負擔團體ガ何者デアアルカト云
フコトヲ前提トシテ、此ノ法律ノ改正ヲ要
スル譯ニナルノデアリマスガ、是ハ今日ハ
市町村ノ負擔ト云フコトニ勅令ノ規定デ相
成ッテ居リマスノヲ、府縣負擔ニ移ス、
ソレト相應ジテ府縣負擔トナルガ故ニ、負
擔團體ニ對スル國庫ノ負擔金モ新シク負擔

團體トナツタ其ノ公共團體ニ對シテ交付スル
ト云フ意味デアリマス、是ハ若シ從來ノ如
ク負擔團體ガ矢張り市町村デアリマシテ、
サウシテ單純ニ定率ハ千五百萬圓ト云フモ
ノヲ二分ノ一ニ直スト云フヤウナ關係デア
リマシタラバ、問題ハ簡單デアリマスケレ
ドモ、今回ノハ負擔團體ガ變リマスノト伴
ヒマシテ、國庫負擔金ヲ其ノ今度變ル負擔
團體ニ交付スル、斯ウ云フコトニ相成リマ
スルノデ、雙方ガ互ニ關聯スルコトニ相成ッ
テ居ルノデアリマス、左様ナ譯デアリマス
カラ、此ノ法律ノ改正ガ出マシテモ、一方

負擔團體ヲ何モノニスルカト云フ勅令ガ出
ナケレバ意味ヲ成サスコトニナルノデアリ
マスカラ、雙方相關聯シテ四月一日カラ之
ヲ施行シテ行カウ、斯ウ云フコトニ相成ル
ノデアリマス、從ッテ幸ニ此ノ法律ノ改正案
ニ付キマシテ御協賛ヲ得ルコトガ出來マス
ナラバ、勅令ノ方ハソレニ應ジテ之ヲ制定
スルダケノ用意ハ致シテ居ル譯デアリマス
○澤田牛麿君 只今ノ御説明ハ能ク分リマ
シタ、尙モウ一ツ是モ大變幼稚ナ質問デス
ガ、御伺ヒシタイノハ、此ノ府縣ニ負擔サ
セルト云フコトガ既ニ勅令デ宜シイコトデ
アルナラバ、國庫ガ其ノ半額ヲ負擔スルト
云フコトモ、是ハ是非法律デナケレバナラ
ヌコトデアリマセウカ、矢張り勅令デモ宜
イノデハナイノデアリマセウカ

○國務大臣(松浦鎮次郎君) 國庫負擔法ハ
詰リ從來法律トシテ規定サレテ居ルノデア
リマスカラ、之ヲ變ヘマセスト、負擔法ニ
依ッテハ市町村ニ行ク、併シナガラ俸給費ヲ
負擔スル團體ハ府縣ニナツテ居ルト云フコ
トデハ平仄ガ合ハヌコトニナリマスカラ、
矢張り此ノ法律ハ之ヲ變更スル必要ガアル

ト思フノデアリマス
○澤田牛麿君 是ガ法律ニナツタノハ、其ノ
時ノ事情ヲ能ク存ジマセヌガ、別ニ憲法上
ノ形式論トシテ法律デナケレバナラヌト云
フヤウナ事柄カラ來タノデハナクシテ、何
カ他ノ理由カラ來タノデアリマセウカ、ソ
レカラ今回御改正ニナルナラバ、私ハ、
モウ法律ヲ要セザルコトナラバ、斯ウ云
フコトハ勅令デモ宜イコトデハナイカ、
法律ヲ要シナイコトハ、デナイカト思ヒマ
ス、此ノ點ハ大變幼稚ナ質問デアリマス
ガ……

○國務大臣(松浦鎮次郎君) 御答ヘ致シマ
スガ、此ノ國庫負擔法ハ憲法上必ズシモ法
律ヲ要スルト云フ事項デハ無論ナイノデア
リマスガ、此ノ國庫ノ負擔ノコトハ、市町
村立小學校教員ノ俸給ニ對シテ國庫モ亦之
ヲ負擔スルト云フ意味ニ於テ、財政的ニ之
ヲ援助スル、斯ウ云フ意味カラ特ニ重要ナ
事柄デアリマスシ、且是ハ法律ニ致シテ置
キマシタガ、國庫ノ負擔ト云フコトヲ確
實ニ致スト云フ意味カラ法律ニシタガ宜
シイト云フノデ大正七年デアリマシタカ、
初メテ是ガ出來マシタ時カラ法律ニナツ
テ居ルノデアリマス、之ヲ必ズシモ法律ニシ
ナケレバナラヌト云フ憲法上ノ理由ガアル
譯デアリナイノデアリマス

○澤田牛麿君 御答デ分リマシタノデスガ、
チヨット異様ニ感ズルノハ、斯ウ云フ法律デ
ナクトモ宜シイ事柄ニ迄法律デ規定シテ居
ルノデアレバ、形式論トシテハ別問題トシ
テ、實質上法律デナケレバナラヌ、法律デ
アルコトヲ適當トスルヤウナ事柄ニ迄勅令
ヲ……從前ノ經歷カラト云フノデ、勅令ノ
改正若シクハ勅令ノ新設ト云フ方デヤッテ

居ル、少シドウモ足並ト云ヒマスカ、調子
ト云ヒマスカ、我々ニハ文部省ノ今迄ノヤ
リ方ガドウモ筋ガ立タナイヤウナ感じガス
ルノデアリマス、從前通り是迄法律ニナツ
テ居ルモノハ法律デアリ、法律ニナツテ居ラヌ
モノハ法律デナシニ勅令デアリ、其ノ内容
ノ重要サト云フヤウナコトニハ餘リ關係ナ
ク、經歷ニ依ッテダケ處理シテ行クト云フコ
トノヤウデスガ、今後ノ御方針モサウ云フ
コトデアリマセウカ

○國務大臣(松浦鎮次郎君) 此ノ負擔法ヲ
法律ニスルト云フコトニ付キマシテハ、法
律ニ致シテ置キマシテ、議會ノ御協賛ヲ經
タモノニナツテ居リマスレバ、此ノ國庫負擔
ト云フコトガ確實ニ相成リマスノデ、謂ハ
バ政府モ之ニ拘束サレテ申シマスカ、議
會トシテモ一度ビ法律トシテ之ヲ規定サレ
マシタ以上ハ、其ノ重ミガ大變多クナツテ參
ル、斯ウ云フコトニナリマスシ、從來矢張
リ國庫ノ負擔トカ、補助トカ云フコトデ法
律ニナツテ居ルモノハ、此ノ外ニモ澤田アル
ノデアリマス、此ノ小學校教員ノ俸給費ヲ
直接負擔シテ俸給ヲ支給スルト云フ事柄ハ、
ドウノ團體ガ其ノ俸給ヲ負擔シ、俸給ヲ支給
スルカト云フコトハ、是ハ教育令ニ關スル
モノトシテ、從來是ガ勅令事項トシテ規定
サレテ居ルノデアリマス、其ノ負擔團體ニ
對シテ國庫カラ分擔的ニ之ニ援助スルト云
フコトハ、是ハ自ラ關係ヲ異ニ致シマスノ
デ、其ノ點ハ從來法律トシテ規定サレテ居
ルト云フ譯デアリマシテ、是ハ此ノ外ニモ
負擔法トハ申シマセヌガ、青年學校ニ對スル
國庫補助トカ色々ナモノガ矢張り法律トシ
テ規定サレテ居ル譯デアリマシテ、單リ義務教
育費國庫負擔法ダケガ法律トシテ規定サレ

第四部第二三類 市町村義務教育費國庫負擔法改正法律案特別委員會議事速記第一號

テ居ルト云フ次第デハナイノデアリマス
 ○田所美治君 澤田君ノ御尋ニナツテ居ル
 コトハマダ中味ニ入りマセズ、形式論ニ
 ナツテ居リマスガ、是ハ文部大臣ニ伺ヒマス
 ガ、法律ニシテ置ケバ所謂憲法上ノ既定ノ
 歳出ニナツテシマツテ、現行デハ「八千五百萬
 圓ヲ下ラザルモノトス」トゴザイマスカラ、
 只今文部大臣ノ御説明ニナツタヤウニ政府
 モ拘束ヲ受ケル、議會モ拘束ヲ受ケル法律
 ニナリマスカラ、憲法上デ云ヘバ規定ノ歳
 出ニナル、斯ウ云フコトニ諒解シテ宜シウ
 ゴザイマスガ、斯ウ私ハ考ヘルノデスガ、澤
 田君ハ其ノ點ヲ聽カレテ居ルト存ジマスケ
 レドモ、之ヲ勅令デヤリマス、勅令デ始
 終改ヘラレマスカラ頗ル不安デ、今年ハ府
 縣費デアリマシテモ、來年ハ又市町村費ニ
 ナルカモ知レマセヌカラ……現行ハ市町村
 ニ八千五百萬圓ノ國庫ガ負擔スル、斯ウ云
 フコトデ行ツテ居リマス、尙初メカラ是ハ
 法律ニ依ツテ規定ノ歳出ニスルト云フ形ヲ
 取ツテ參リマシタト思フテ居リマスガ、其ノ
 點ニ於テハ今度ノ負擔法モ同一ノ趣意精神
 ヲ御貫キニナリ、第一條ハ「國庫之ヲ負擔ス」
 兎ニ角半額ハ動かヌモノニナツテ參ルノデ
 アリマスカラ、頗ル安定スル譯デアリマシ
 テ、所謂憲法上デ云ヘバ規定歳出ト斯ウ云フ
 コトニナル、其ノ爲ニ其ノ意味ヲ踏襲セラレ
 ル、斯ウ了解シテ宜イダラウト思フノデアリ
 マスガ、サウデアリマスカドウカ伺ヒマス、
 ソレカラ澤田君ノ御尋ノ勅令ニ依ツテ云々、
 勅令ト法律トホコトニナルノデアリカ、
 澤田君ノ所論ハ、義務教育ノ年限延長ハ法律
 デヤツタラドウカト、斯ウ云フコトヲ總會デモ
 問ハレテ居ツタヤウデスカラ、其ノ御尋デアラ
 ウト思フノデアリマスガ、ソコデ私ハ其ノ點ノ

サツキ資料ヲ願フノデアリマセヌ、別ノ點
 デアリマスケレドモ、具體的ニ申シマス、
 只今ノ現行法ノ關係ヲ云ヘバ、小學校令ノ
 五十一條デ「市町村立小學校ノ設置ニ對ス
 ル費用ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外市
 町村」云々、「ノ負擔トス其ノ概目左ノ如シ」
 トシマシテ、「一、設備及其ノ維持ノ費用」
 ソレカラ二ハ「職員ノ俸給、旅費、其ノ他諸
 給與」トアリマス、三ハ「校費」トアリマス
 ガ、二ハ今度御削リニナツテ職員ノ俸給、旅
 費、斯ウ云フモノハ「特別ノ規定」云々ハ府
 縣ノ是ハ負擔トス、斯ウ云フヤウニナルダ
 ラウト思ヒマスガ、サウ云フ改正案ガ出來
 テ居リマスレバ、ソレヲ私ハ矢張り資料ニ
 追加シテ御願ヒシタイト思ヒマス、國民學
 校ノ勅令ハマダナカク、是ハ整備シタモノ
 ガ出來マスマイカラ、差當リ此ノ法律ガ數
 日ノ中ニ通過スルト云フコトニナリマシタ
 ナラバ、直グニ小學校令ノ五十一條ト云フ
 モノヲ御改正ニナラナケレバナラス、此ノ
 勅令ノ方デ負擔ノ關係ガ決ツテ居リマスカ
 ラ、市町村負擔ト云フ所ニ之ヲ「府縣ノ負
 擔トス」、斯ウ云フコトニ改正ヲナサルダラ
 ウト思ヒマスガ、其ノ邊ノ關係ハドウ了解
 シテ宜シウゴザイマスガ、モウ一ツ、是ハ
 モウ形式論デスガ、伺ツテ置キマスガ、此ノ
 附則ニ「昭和七年法律第二號ハ之ヲ廢止ス」
 トゴザイマスガ、チヨット現行法規ニ見當リ
 マセヌガ、「昭和七年法律第二號ハ之ヲ廢止
 ス」ト云フ法律第二號ハ下シナモノデアリ
 マスカ、局長カラデモ宜ウゴザイマスガ、
 御説明ヲ願ヒマス、私ハ寧ロソレヨリモ現
 在ノ市町村立義務教育費國庫負擔法、ソレ
 ガ大正十二年ノ法律第二十號デゴザイマス
 ガ、之ヲ廢止スト云フ附則ニ規定ヲ御設ケ

ニナツタナラバ、澤田君ノ言ハレル第一番ニ
 問ハレマシタ立法形式ノ規定ガ明白ニナリ
 ハシナイカドウカ、ソレハ御尋キニナツタ處
 デ明白ニナルダケノ效用ガアツテ決シテ害ハ
 ナイノデアリマス、サツキ徵兵令ガ兵役法
 トナツタ、ソレハドウモ私存ジマセヌガ、其
 ノ方ノ附則ニ從來ノ徵兵令ハ、之ヲ廢止ト
 云フヤウナ形式ノ變改ノ規定ハナカッタモノ
 デアリマセウカ、ソレモチヨット伺ツテ見タ
 イト思フノデアリマス、チヨット是ハ澤田君
 ノ言ハレルヤウナ、批評シテ見ルト缺陷ガ
 アルノデアリナラウカ、立法形式ノ上デ
 市町村義務教育費國庫負擔法、即チ大正十
 二年法律第二十號ハ之ヲ廢止スト云フ附則
 ヲ一ツ御設ケニナル方ガ形式ガ整備スルノ
 デハナイカト思ヒマスガ、先ヅ此ノ點ヲ一
 ニ伺ヒマス
 ○國務大臣(松浦鎮次郎君) 只今田所君ノ
 御尋デゴザイマスガ、第一ノ之ヲ國庫負擔
 ノ關係ヲ法律ニシテ置クト云フコトノ意味
 ニ付キマシテノ御説明ハ御説ノ通りデアリ
 マス、ソレカラ第二ノ此ノ小學校ニ於キマ
 シテ、小學校ノ設置ニ要スル費用ハ「特別
 ノ規定アル場合ヲ除クノ外云々」ト小學校
 令第五十一條ノ規定、之ニ關シマシタコト
 ニ付キマシテハ勅令デ是ハ規定サレルノデ
 アリマシテ、其ノ用意ハ只今致シテ居リマ
 ス、ソレカラ旅費ハ、今日ノ小學校令ニ於
 キマシテ全部市町村ノ負擔ト相成ツテ居ルノ
 デアリマスガ、今回ハ道府縣支辨ニ移シマ
 スノハ、俸給及教員ノ任免ニ當然伴フ赴任
 旅費ダケヲ府縣ノ支辨ニ致シマスノデ、其
 ノ他ノ旅費ト云フモノハ、矢張り市町村支
 辨トシテ現在ノ通りニ殘スノデアリマス、ソ
 レカラ兵役法ノコトニ付キマシテ、矢張り附

則ニ前法ヲ廢止スルト云フ規定ガアルノデ
 ハナイカト云フ御尋デアッタノデアリマス
 ガ、是ハ能ク取調ベマシテ御答ヘ致シマスガ、
 新シキ法律ヲ作ツテ前法ヲ廢スルト云フ形ヲ
 取ラナイ、前例トシテ今兵役法ト徵兵令ノ
 コトヲ申シタノデアリマスガ、多分兵役法
 ニ付キマシテモ、附則デ徵兵令ヲ廢止スト
 云フ規定ガナカッタコトト承知シテ居リマ
 ス、是ハ尙取調ベマシテ更ニ御答ヘ致シマ
 ス、ソレカラ此ノ昭和七年法律第二號ト云
 フノハ、是ハ「市町村ノ廢置分合又ハ境界
 變更アリタル場合ニ於テハ主務大臣ハ勅令
 ノ定ムル所ニ依リ市町村義務教育費國庫負
 擔法第三條ノ規定ノ適用ニ付期間ヲ定メ舊
 町村地域ニシテ新ニ市ニ屬シタル部分ヲ町
 村ト看做シ同條ノ規定ニ依リテ町村ノミニ
 交付スル國庫支出金ヲ當該市ニ交付スルコ
 トヲ得」ト云フ規定デアリマシテ、是ハ今
 日ハ最早必要ノナイ譯デアリマシテ、殊ニ
 市町村ニ交付スル負擔金ヲ交付スルト云フ
 コトデアリマスレバ、現行ノ規定ニ依リマ
 シテ比較的市ニ薄ク、比較的町村ニ厚ク、
 分配上ノ關係カラスウ云フコトガ言ハレマ
 スガ、今回ハ道府縣ニ負擔スルコトニ致シ
 マスレバ、斯ウ云フ規定ヲ置ク必要ガナイ
 ノデアリマスカラ、之ヲ削ツタ斯ウ云フ次第
 デアリマス
 ○田所美治君 是ハマア文部省デモ十分調
 ベ、法制局ノ方デモ審査フシタ結果デアリ
 マセウガ、今拜見シマシテ又文部大臣ノ御
 説明デ、法律第二號ト云フモノガ分リマシ
 タガ、實ハ澤田君ノ立法形式論カラ申シマ
 スト、市町村ニ交付スルコトハ今度廢マル
 ノデアリマスカラ、根本的ニ其ノ方サヘ明
 カニナリマスレバ寧ロ法律第二號當然廢止

セラレルモノダト思フノデアリマスケレドモ、併シ形式ヲ具備スル爲ニ、此ノ附則ノ第二項ハアツテモ宜イカモ存ジマセヌガ、寧ろ殘ル問題ハ、兵役法ヲ能ク御調べ願ヒマシテ、我々ノ蒙リ御解キ願ヒタイト存ジマス、今ノ文部大臣ハ法律明徴ノ方デアリマスカラ、申ス迄モナイノデアリマスガ、此ノ附則ノ二項コソ餘計ナモノデ、今度ハ原則ガ變ルノデスカラ、町村ノ合併ガアツタツテモ一向負擔ノ方ニハ無關係ノ話デ、市町村ト云フモノニ交付スル原則ガ止マツテシマフノデス、形骸ダケ殘ツテ居ルカモ知レマセヌガ、當然廢止スルト云フ解釋ガ出來ルト思ヒマス、寧ろチヨットヒネクツテ見ルト、法律的ニ云フト、澤田君ノ言フヤウニ、市町村義務教育費國庫負擔法ト是ハ兩立スルモノカナト思フタ、斯ウ云フヤウナ感ジモ殘ルヤウニ思フノデアリマスガ、兵役法ノ關係デ又一ツ私モ研究スルコトニシマシテ私ノ質問ハ是デ終リマス

○子爵松平保男君 私有資料ノ提供ヲ御願ヒシタイノデアリマス、此ノ事變動發以來、正教員ガ多數應召シマシテ、代用教員ガ大分多クナツテ來テ居ルヤウニ聞イテ居ルノデアリマスガ、事變動發以前ヨリ今日ニ至ル迄ノ狀況ヲ知ル爲ニ、數字ニ依ツテ表ハシタモノヲ御示ヲ願ヒタイト思ヒマス、モウ一ツハ、此ノ兵役法ノ改正ガアリマシテカラ、教員ノ志願者ノ數ガ餘程減ツテ來テ居ルヤウニモ聞イテ居ルノデアリマス、是モドウ云フヤウナ狀況デアリマスカ、試験ヲ受ケル志願者ノ數字ニ依ツテ表ハシタモノヲ承知致シタイト思フノデアリマスガ、此ノ二ツノ資料ヲ御願ヒシタイト思ヒマス

○男爵大森佳一君 只今澤田サン、田所サ

ンカラモ御話ガ出マシタガ、チヨット關聯致シマシテ申上ゲテ見タイト思ヒマス、是ハモウ議論ヲシマスト隨分長イ議論ニナリマスガ、簡單ニチヨット何ツテ置キタイト思ヒマス、只今ノ義務教育費國庫負擔法ノ負擔ヲスルト云フ第一條ノ規定ハ、是ハ立法事項デヤナイケレドモ法律ヲ以テスルヤウニシタ、是ハ勿論私ハ宜イコトダト思ヒマス、併シナガラ小學校等ニ對シテ色々小學校ノ教育事務ヲ命ジ、色々ノ設備ヲ負擔サセルト云フ其ノ負擔セシメテ居ルコトヲ、今度ハ取上ゲテシマツテ府縣ニ移ス、サウシテ、府縣ニ負擔ヲ背負ハスト云フヤウナ關係ハ、私ハ法律ヲ以テスル方ガ宜イト思ヒマス、苟クモ公共團體ガ義務ヲ國家カラ命セラレテ、之ヲヤラナケレバナラスト云フ結果ヲ來スヤウナ法律關係ヲ開クト云フ場合ニハ、法律ヲ以テスルノガ當然ナコトデアル、立憲政體ニ於キマシテ、又政治上ハ、萬民輔翼ノ途ヲ厚クスルト云フ此ノ時局ニ於キマシテモ、斯ウ云フコトハ法律ヲ以テ決メル方ガ政治上ニ於テ宜イ、又社會的ニモ宜イト云フコトヲ考ヘテ居リマス、此ノコトハ既往ニ於テ隨分論ゼラレテ居ルノデアリマシテ、小學校ノ設置其ノ他義務教育ノ義務ヲ國民ニ命ズルト云フガ如キコトハ、憲法上ノ理論カラ言ウテモ、法律ヲ以テ義務ヲ命ズルト云フコトニシナケレバ私ハ噓ダト思フノデアリマス、又青年學校ニ就學義務ヲ命ズルニシマシテモ、既ニ一昨年デアリマシタカ、昨年デアリマシタカ議論ヲ私致シマシタガ、其ノ時モ之ヲ勅命デスル、國民ニ重大ナル義務ヲ負ハセル、サウシテ大イニ精神的ニ國民ノ協力ヲ

得ナケレバナラヌヤウナ事柄モ勅令ヲ以テ之ヲ單獨ニ命ズル、議會ノ理解ヲ得ズ、憲法上ノ精神的ナ要求モ充タサズシテ、勅令ヲ以テスパット義務ヲ命ズル、又取上ゲル時モ勅令ヲ以テ取上ゲテシマフコトハ、非立憲ト申シテモ宜クハナイカト私ハ考ヘマス、但シ是ハ沿革モアリ、教育ノコトニ付テハ、多ク勅令デスルト云フ慣行モアルカラヤッタノダト云フ當時ノ御説明デアリマシタガ、私ハ是ハ訝シク思フノデアリマス、憲法上是ガ必要デアルト言フト言ハスト、ソレハドウデモ宜シイ、政治上ニ於テ、或ハ社會上ニ於テ、國民ヲ理解アル運動ニ參加セシメテ、大イニ國家ノ爲ニ小學校ヲ振興サセ、又青年學校ヲ振興サセルト云フ爲ニハ、ドウシテモ此ノ國民ノ協力ヲ得ル爲ニ議會ニカケテ、サウシテ國民ニ十分ナル理解ヲ得セシメテコソ、其ノ法制ガ生キテ來ルト云フ結果ニナルト思フノデアリマス、ナカノ一は教育ノコト、文部省ノ關係ノコトハ沿革ヲ保守サレテ改メラレナイト云フコトヲ私ハ痛感スルノデアリマス、殊ニ今議題ニナツテ居リマスル此ノ法律案ニ付キマシテモ、衆議院等ガ隨分ヤカマシイ議論ヲシテ居リマスガ、是ハ府縣ニ於テ要スル經費ノ半額ヲ國庫之ヲ負擔スルト云フコトガ主ナル問題デハナクテ、府縣ニ義務ヲ命ズル、教員ノ俸給ノ支出義務ヲ命ズルト云フコトニ議論ガ根柢ヲ成シテ居ル、代議士等ガ頻リニ其ノ是非ヲ論ズルノモ、府縣ニ之ヲ支出ノ義務ヲ命ジテヤラセルガ教育上良イカ、惡イカト云フコトヲ論議致シマス、然ルベキコトダト思ヒマス、處方其ノ主ナル根柢ノ問題ハ勅令デヤル、ダカラ勅令デヤラウトスル根本ノコトニ付テノ是非

ヲ議會ヲ以テ論ズルト云フコトニナツテシマウノデアリマス、衆議院議員ガ頻リニ此ノ地方ノ爲カ、國家教育ノ爲ニ是非ヲ論ズルコトハ然ルベキコトダト思ヒマス、其ノ然ルベキコトト思ハル、問題ノ焦點ハ勅令ノ方ニ行ツテ居ル、法律デヤナイ、此ノ法律ハ唯國庫ガ負擔スルト云フダケノ法律デアアル、根本ニナル問題ハ勅令ノ方ニ廻サレテ居ル、サウシテ議會ノ議論ハ、其ノ根本ノ勅令ノ方ニ廻サレテ居ル問題ニ付テ議論シテ居ル、矛盾モ甚ダシイト思フノデアリマス、其ノ矛盾ハ、其ノ根本ノ問題ヲ議會ニカケテ、法律ヲ以テスルト云フコトヲシナイカラ、サウ云フ矛盾ガ生ジテ來ルト私ハ思フノデアリマス、唯從來ノ慣例カラ、沿革カラスウスルノダト云フヤウナ御説明バカリ從來承ツテ居リマスガ、今回ノ大臣ニ於カレマシテハ、之ニ付テ矢張りサウ云フ御考デアリマセウカ、從來ハサウデアツテモ、是ハ國民ノ利害休戚ニ非常ナ問題ヲ招クノデアルカラシテ、此ノ問題ハ勅令ニセズシテ、法律ヲ以テ決ムコトヲ御決心ハゴザイマセヌデセウカト云フコトヲ承リマシテ、簡單ニ右左ノ御考ヲ承レバソレデ私ハ止メマス

○國務大臣(松浦彌次郎) 公共團體ニ教育ノコトニ付テノ負擔ヲ命ジマスル事項ヲ、法律ヲ規定スル方ガ宜シクハナイカト云フ段々ノ御意見ヲ御混ヘニナツテノ御尋デスガ、是ハ議論ハ色々立ツコトデアアラウト考ヘマスガ、教育ニ關スル事項ハ從來初メテ二十三年ニ小學校令ガ制定サレマシテカラ、ズツト今日迄長イ沿革ヲ經テ、勅令事項トスルト云フコトニ相成ツテ居リマスルノデ、今之ヲ法律ノ規定ニ變ヘルト云フ考ヲ私ハ持ツテ居ラヌノデアリマス、成ル程就學ノ義

務ト云フヤウナコトニ付キマシテモ、之ヲ法律ニ規定シタ方宜シイト云フ御議論モ、是ハ有リ得ルコトト考ヘテ居リマス、我が國ノ就學ノ義務ハ外國ト違ヒマシテ、其ノ義務ヲ勵行スル爲ニ、其ノ義務ニ違反シタ者ニ對シテ刑罰ヲ科スルト云フヤウナコトハ、主義トシテ探ツテ居リマセヌノデ、何處迄モ義務ハ義務デアルガ、是ハ國民ノ自覺ニ懇ヘテ、其ノ義務ノ履行サレルコトヲ俟ツト云フヤウナ主義ニ依リマシテ、今日迄參ッテ居ルノデアリマス、今後モサウ云フ方針デ參リタイト思フノデアリマス、義務付ケルト云フコトハ、要スルニ刑罰ヲ科スルト云フヤウナ考デナクシテ行カウト云フ關係ニモ相成ッテ居リマスルシ、之ヲ法律ニ規定シヨウト云フコトハ考ヘテ居ラナイノデアリマス、又市町村其ノ他ノ公共團體ニ對シマシテ、教育上ノ費用ノ負擔ヲ命ジマスト云フヤウナコトモ、是ハ公共團體自身ノコトヲ規定シタ法律ニ於キマシテ、法律又ハ勅令ノ規定ニ依ッテ命ゼラレタ義務ヲ、公共團體ニ於テハ履行スルト云フヤウナコトニモ相成ッテ、其ノ途モ付イテ居リマスノデアリマシテ、今日教育ニ關シマスル事項ヲ總テ法律ニ規定シテ行カウト云フコトハ考ヘテ居リマセヌ次第デアリマス、是ハ御議論ハ十分ニ承リマスノデアリマスガ、文部省トシテ考ヘテ居リマスルコトハ只今申上ゲル通りデアリマス

○男爵大森佳一君 研究調査ヲ要シマスル問題ガ多イヤウデアリマスカラ、今日ハ此ノ位デ御止メ願ッテ、調査ヲ致ス時間ヲ與ヘラレタイト思ヒマスガ、如何デゴザイマセウカ

〔贊成〕、「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○委員長(伯爵柳原義光君) ソレデハ本日ハ此ノ程度デ散會ヲ致シマシテ、明日ハ祭日デアリマスカラ休ミマシテ、明後日午前十時カラ第二回ノ委員會ヲ開催致シマス、左様御承知ヲ願ヒマス、散會致シマス、午後三時五分散會

出席者左ノ如シ

委員長 伯爵柳原 義光君
副委員長 男爵大森 佳一君
委員

公爵山縣 有道君
侯爵大炊御門經輝君
子爵松平 保男君
子爵錦小路賴孝君
内田 重成君
建部 遯吾君
男爵中川 良長君
男爵關 義壽君
田所 義治君
澤田 牛麿君
松本 學君
山下 康君
松井貞太郎君

國務大臣

文部大臣 松浦鎮次郎君

政府委員

文部政務次官 子爵舟橋 清賢君
文部省專門學務局長 関口 鯉吉君
文部省普通學務局長 中野 善教君
文部省社會教育局長 田中 重之君
教學局長官 菊池豊三郎君

昭和十五年三月二十一日印刷

昭和十五年三月二十一日發行

貴族院事務局

印刷者 内閣印刷局